

讃美歌 358 番

聖書の言葉を一箇所読みます。そのまま聞いていてください。

異邦人のためにキリスト・イエスに仕える者となり、神の福音のために祭司の役を務めているからです。そしてそれは、異邦人が、聖霊によって聖なるものとされた、神に喜ばれる供え物となるためにほかなりません。そこでわたしは、神のために働くことをキリスト・イエスによって誇りに思っています。キリストがわたしを通して働かれたこと以外は、あえて何も申しません。

今朝も、聖という言葉、聖化について語られました。ここでも「聖なるもの」とされる。異邦人が聖なるものとされる。聖霊によって。まさに聖化がここに。それはなぜかと言うと、「神に喜ばれる供え物」となる。ローマの信徒への手紙の第15章の16節以下の異邦人の伝道者として生きたパウロの言葉です。

もうお疲れでしょうし、短く申します。私は何度か、語っているんですけど、あまり、同意されていないかなと思うことがあるんですけども、一般に伝道者になることを献身すると言います。私の中学時代、献身志願者修養会という名で、牧師になる若者を集めた修養会を戦争中にやったことがあります。忘れたいことでした。私も小さいころから献身するというのは伝道者になることだと思っていましたけれども、伝道者になると決心をしたころから、そう言わなくなってしまっ。なぜか。つまり伝道者になるという自分だけが献身者だと言っているのかという問いが生まれてきた。

パウロは今の言葉のもとにあるのは、やはりローマの信徒への手紙の第12章の1節のところで、ここにもはっきりローマの人たちに、

兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。

これは伝道者になれということではありません。伝道者だけが神に身を献げるというわけではない。キリスト者というのはみんな献身者なんだということを悟ったときに、私は自分が伝道者になるというときに、なったときに献身するということをやめました。そして、すべての教会に、すべてのキリスト者に身を献げるとはどういうことかということをお説くことにしました。

これは参考にしていただいてもいいと思います。伝道者になることを献身するという言い方はよせなんては言っていない。ただ私はやめた。おこがましいと思いました。私だけが献身者だとか、伝道者だけが献身者だというのは、神さまの前に通用しない。そして、パウロははっきり異邦人伝道やっているけれども、異邦人伝道というのは何かと言ったら、異邦人を神さまに献身させるように、その意味で聖なるものとなるようにと伝道しているんだ。

今朝も聖化ということをお説きされましたけれども、われわれが聖なるものとなるのは、神のものとなり切ること以外の何ものでもない。その聖さというものを大切にしたときに、なぜ、伝道者だけが

特別に聖いものであるかのように献身者と言わなければならないのか。まして、自称しなければならないのか。私が献身したのは、という言い方は傲慢にしか聞こえないということにならないか。それと、ほんとうに献身しているのか。われわれは毎日の生活の中で、これが献身者の生活なんだろうかと、自らを省みなければならない。そういうことがいくらでもあると思う。

そこでまさしくへりくだって、私はマタイのように「ついて来い」と言われたから主イエスにお従いして、今、ほんとうに身を献げ切っているかどうか、いつも、自らに問うています。まして、献身者などと自称することはない。そういう生き方も、そういう伝道者の在り様もあっていいのではないか。そういうふうに私は思って86歳まで生きてまいりました。皆さんの献身者としての歩みに参考になるかと思ひまして、ぜひ、われわれの信仰の仲間たちに、いっしょに神さまにわれわれの全存在をお献げするということが、どういうことかを問い続けましょう。呼びかけることが大切なのではないか。

私は今の日本の状況や、やはり、教会がもう一度自分たちの身を神にお献げする。そして、パウロが言ったように、キリスト・イエスがお頼みになっているということ以外の何にも私は言うことはない。主が働いていてくださる。身を献げたわれわれを通じて。そういうような生き方に徹することができればと思う。

われわれのこのみ言葉を説く今回の課題も、ひとつは信仰の仲間たちに、ほんとうに主の呼び声を聞いて、主の後につき従って行っていただきたいと。献身者になって欲しいということを勧めることができれば、それは決して牧師になるだけのことではない。牧師もみんな同じ神さまへの献げものとして見る。そこにわれわれの光栄があると、私はそう思っています。祈りをいたします。

私どもも、主に呼ばれ、主に従って歩いてまいりました。そのつもりです。私どもの歩み、過ちがあるならば赦してください。悔い改めさせてください。ほんとうの位置に立ち返らせてください。私ども自身が聖さに生きることが出来ますように。それゆえに聖く生きようと呼びかけることが出来ますように。

この世の悩み、痛みを思います。真実にその痛みの中に立ち、キリストにお従いする者となり得ますように。今宵、安らかな憩いを与えて、明日、新鮮な思いで、また学びを続けることが出来ますように。離れている家族、教会員、教会堂が待っている町の人びとに、今宵、平安を与えてくださいますように。

主の御名によって祈ります。アーメン